

Living with the Earth
土祭 2015

ふりかえりアンケート 集計結果
フリーアンサー回答 全文掲載

有効回答数 109 枚

	合計	性別内訳			年齢内訳						
		男性	女性	不明	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明
民間スタッフや関係者	40	17	22	1	4	12	8	7	7	0	1
職員	44	19	23	2	12	14	9	5	1	0	3
出展作家や登壇者	25	19	6	0	2	6	7	5	4	1	0
総合計	109	55	51	3	18	33	24	17	12	1	4

2015. 11
土祭事務局

I. 準備期間と会期中のこと

Q1 準備や企画に関わったり参加したものに○をつけてください。(複数回答可)

項目	作家	民間	職員	計
1. 風土・風景を読み解くプロジェクト（聞き取り・つどい・報告会）	9	12	12	33
2. 土祭風景遠足	0	3	0	3
3. 作品の展示	25	5	3	33
4. 益子風土学セミナー	5	6	2	13
5. まちなか映画館 太平座	2	8	6	16
6. グレイズハウス（改修・三和土や会期中のワークショップ）	7	8	1	16
7. 土舞台月待ち演奏会	4	9	6	19
8. 夕焼けバー	7	22	13	42
9. 益子手仕事村	4	18	6	28
10. 土祭食堂	3	6	2	11
11. 演劇「花音」	3	4	3	10
12. 地域企画・関連企画	6	6	2	14
13. 受付スタッフや観光ガイド	0	4	28	32
14. ほか（まかない食堂、救護、駐車場、広報など）	3	2	12	17

Q2 企画や準備をしている時の気持ちとして当てはまるもの1つに○をつけてください。

	作家	民間	職員	合計	合計%	合計%
1. とても楽しかった	9	12	2	22	20.4	77.8%
2. 楽しかった	7	15	9	31	28.7	
3. まあまあ楽しかった	6	7	18	31	28.7	
4. 少しつらかった	2	3	6	11	10.2	16.7%
5. つらかった	(1)	1	3	5	4.6	
6. とてもつらかった	0	0	2	2	1.9	
7. 無回答	1	1	3	5	4.6	5.5%
8. 準備に参加していない	0	0	1	1	0.9	

Q3 準備期間で嬉しかったこと、辛かったことを教えてください。

《民間スタッフや関係者》

①人との交流や協力、新しい繋がりができたことに満足

- ・今回も新しい友人ができたことが嬉しかったです
- ・参加された方との交流もでき、嬉しかった。
- ・つらかったことはありません。町内でいろんな人に知り合うことができて嬉しかったです。
- ・人との出会いが一番嬉しかったです。準備も楽しめました
- ・(花音) 地域の方々がとても親切に協力してくださったことが嬉しかった。そのことがただ「作品を持ってくる」ことではなく共につくること、益子ならではのものをつくることにつながっていると思います。
- ・直前までわからないことだらけでスリル満点でした。友人達や地元の方とのふれ合いが嬉しかった。辛かったことは特にありません。
- ・初めての参加でしたがスタッフの方や周りの方もとてもやさしくとても楽しい時間を過ごすことができました。
- ・(光る泥団子) 町職員の方やワークショップのお手伝いメンバーの方達と徐々に交流が深まり土祭を盛り上げようという意識が共有できました。
- ・新しい人との出会いがあった
- ・「濱田の台所」では、お友達とワイワイおしゃべりしながら調理して楽しかったです。作った料理も完売してうれしかったです。手仕事村では自分の出店日が雨で中止になり参加できませんでしたが、準備の時などに他の出店者の方達と知り合うことができてよかったです。

②人との交流+複合的感想など

- ・光る泥団子では準備からお手伝いしたので、お客様が作って大切に持って帰る姿を見たとき、とても嬉しかったです。また1回のワークショップのボランティアでお礼が出たのも出ないと思っていたので嬉しかったです。夕焼けパーでは横のつながりができ、出展という経験が積めたのは良かったですし、店として力がついてきたように思います。土祭のブログを書かせていただきとても光栄でした。いつも自分の想うままに書いたり撮ったりしているので町主催のブログとして私の文章は大丈夫か写真はこれで良いか不安になった部分もありました。ですが温かく取材させてくださった作家さんとの出会い、土祭事務局のみなさんと少し密に話せたこと、知らない方からの応援が耳に届きボランティアしてよかったなと思いました。
- ・土祭を通していろいろな方に出会えたり、知り合えたりで、今までより「益子」に入り込めた気がして嬉しかった。しかし企画の準備などに関して、仕事との兼ね合いもあり、仲間に任せる部分が大きくなってしまった。
- ・竹テントの設営のお手伝いに参加しました。初めてお会いする人達と一緒に色々な話しをしながらの作業は楽しかったです。ただ、とても参加者が少ないのに驚きました。もっとたくさんの人が参加してくれたら良かったのかなと思いました。呼びかけのニュアンスが参加してもしなくても良いと受け取れるような感じだったので、なるべく参加して欲しいと伝わるような呼びかけだったら良かったかなと思いました。
- ・(土祭食堂) 平日の5日間を選んだのですが、嬉しかったことは、メニューのこと、器のこと、作業のことなど仲間が大変協力してくれたことなどです。辛かったことは、食堂にお客がどのくらいこられるのかが不安だったり仲間のチー

ムワークがうまういくかということなどがありました。

- ・今回、町全体のプロジェクトに参加できたことで、新たな繋がりや発見に恵まれ、活動の幅が広がったようにも思います。多くの人たちと共に「場」を作り上げていく作業は、とても楽しい体験でした。まちなか映画館も手仕事村も、会場が手作りで、雰囲気素晴らしく、私はあまり設営などのお手伝いができなかったのも、ありがたく思いました。

辛い・・・とまでの強い気持ちはではないのですが、以下、改善すべきと感じた点。まちなか映画館も手仕事村も、宣伝（パンフレットの作成など）が遅すぎたと思います。まちなかに関して言えば、パンフレットは1か月前には刷り上げるという話だったので、1週間前に刷り上がった時には、えー！！と驚きました。独自にチラシを作り、予約制にしていたので、そこまでの影響はありませんでしたが、宣伝はイベントの要です。監督などのゲストにも迷惑がかかりますし、ネットを見ない方もたくさんいらっしゃいます。公式ガイドの案内だけでは不十分だと感じたので、やはり紙媒体での宣伝は、最低でも1か月前にはスタートできないと厳しいと思います。できることはできる、できないことはできない、と事前に連絡して下されば、イベントの主催者も対処のしようがあったのではないのでしょうか。

事務局のスタッフが足りていないのが、根本的な原因のように思うので、是非とも改善して頂きたいと思っています。

- ・平日の夜に集合だったのでちょっと辛かった。準備が土日祝だとありがたかったです。ただ平日は平日で日常の益子の街を感じられてよかったです。初めは知らない人同士でしたが数回に分けて準備したことによりメンバー同士の関係性が築けてよかったです。

③新しい試みや学びがあった

- ・（光る泥団子）ワークショップでは体験できない芯玉作りを経験でき貴重だった
- ・文化財（大羽地区）のガイド資料を作ることで個人の勉強にもなり新しい発見もあった
- ・竹テントの作り方が学べた。

④「つどい」による効果を実感

- ・私が参加した地区は、最初は堅苦しい雰囲気だったものの、各地区のつどいが開催されたことと、そのつどいの成果が企画運営に実際に反映されたと感じられたことは、素晴らしいことだと思います。

⑤辛かったこと、大変だったこと、ほか。

- ・特にない。ただ陶芸メッセや濱田邸での展示に使用するという事で麦刈りをしたが、あまりの強行スケジュールに若干緊張した。無事終了してほっとしました。
- ・段取りが悪かった。準備できるところまで準備したいと思うのにできないことが辛いと思った。
- ・地域との関わりが嬉しいが、日程の長さが辛い。
- ・準備で楽しいということはない
- ・（土祭食堂）食材の準備が、数が読めず大変でした。
- ・（中学生セミナー）実際に現在活躍中の作家さんにインタビューすることができて、とても勉強になりました。ただ、インタビューを終えてから、どのようにまとめ、発表の段階に持ち込んでいけば良いか見通しが不透明で、進めていくのが厳しかったです。
- ・八幡神社の例大祭との関係で調整が大変でした。
- ・店舗を含む敷地の清掃が大変でした（土祭食堂）
- ・準備期間は特段普通でした。

《出展作家・登壇者》

①人との交流や協力、新しい繋がりができたことに満足

- ・運営サイドの誠意のある対応と、子どもたちのアクティブさ。
- ・事務局の皆様へ惜しげないご協力をいただいたことです。
- ・嬉しかったことは会場近くの住民のみなさんとの交流、辛かったのは作品の仕上げのときに台風がきたこと
- ・皆で作品を作ったり見られたことは為になった。事前の段取りや説明が不足していると感じた。
- ・24名の気持ちをまとめるのが大変でした。でもその分楽しかったです。(原土)

②人との共同作業+複合的感想など

- ・土祭開催前から同じ企画に参加される作家の方々と意見交換や繋がりが出来た事がとても嬉しかったです。今までは展示が始まってから繋がりが出来ていくことが多かったのです。今回の企画の方向性を企画参加者が共有できていたように思います。とても心強かったです。6月に現地に行き会場地域を歩いたときに、私自身がする仕事の役割がスムーズに発見できたのも驚きでした。これも Facebook で企画内容を共有できていたからだと思います。事務局の方々が、急なお願いにも丁寧に対応してくださったこともとても有り難かったです。宿泊する場所の確保や、会場地域の詳しい情報を的確に伝えていただきとても有り難かったです。
- ・企画の方や地域リーダーの方や事務局の方達と一緒に勧められたことが、いろいろな気づきがあったり、可能性を発見出来たり、やる気を頂いたりできてとても嬉しく愉しかったです。会場の整備や準備をどこまで作家自身がしなければいけないのか、事務局や役場の方へお願いできることがどこまでなのかが分り辛くて、やり辛かったことがありました。
- ・作品制作を通して、益子という土地への理解を自分なりに深めていけたこと。また、その過程で尊敬できる人との出会いが生まれたこと。そういったことを含めて、作品を完成させることができ、喜びを感じた。芸術の力が土地と人を結びつけてくれた特別な機会になったと思う。(原土)
- ・嬉しかったのは、普段かかわりのない方たちとの出会いと交流です。辛いのは、思った以上に時間と集中力をとられたので、自分の仕事への齎寄せがきつかった。
- ・作品の出展だったため、新しい試みに挑戦できた事が良かった。私の関わった企画は多くの人で行うものでしたので、一人一人の気持ちや仕事に向かう姿勢などが少しでも観れて仲間の中でも良い経験になったと思う。大雨の中、役場スタッフの皆様、お疲れさまでした。(原土)

③制作の楽しさ

- ・嬉しかったことは、原土を扱うこと (原土)
- ・自分の企画でしたので、自分の展示準備と作業は楽しかった
- ・マイペースで楽しく制作できました。
- ・新しい事を試みられて良かった。制作時間がとれなくて無理をした。(原土)
- ・何人かでやる作業が早いので苦にならず楽しくできる。(原土)

④辛かったこと、大変だったこと、ほか。

- ・関わった光る泥団子プロジェクトは準備期間が短く見切り発車しなければ間に合わなかった。大変だった。
- ・招待された作家なのかボランティア協力を要請されたのか、主体はどこに誰にあるのか、よくわからなかった (原土)

- ・全体像がわかりにくいので展示の内容や構成を決めるのに悩みました。
- ・つかもと会場の水の取り替える場所が遠かったので少し大変でした。役場の職員の方には大変お世話になりました。
- ・おそらく、スタッフの方々には、嬉しいこと、辛かったことがいっぱいあったことでしょう。しかし、この経験は何事にも代えることのできない、貴重な体験だったと思います。
- ・悪天候により、非常に苦勞した。企画をしている際は、様々な場の印象、関係者からのお話など、空間を考えるやり取りは充実したものだった。
- ・展示する建物の掃除が大変でした。(原土)
- ・ものを作り出すことをしていない(不慣れな)役場内部との調整が大変だった。

《職員》

①人との交流や協力、新しい繋がりができたことに満足、ほか。

- ・土祭事務局の方々が親切にしてくれた
- ・会場設営の準備中、町民の方々と協力でき、嬉しさを感じた。
- ・多くの人と触れ合うことができた
- ・自主的に作業を手伝ってくださる方がいたこと。忙しい中でも、みなさん語り合う時間を設けたり協力的だったこと。
- ・ノルマが厳しくなかった。自分の創意工夫が活かされた
- ・中学生セミナーの準備で回を追うごとに中学生の成長が見られ嬉しかった。土祭合唱団の運営で、ともに合唱を作り上げていく仲間たちとの時間が楽しかった。

②思うように活動できなかつたことが残念

- ・2015の企画は風土風景を読み解く集いをはじめ、地域の成り立ちから益子の未来を思考するアプローチに感銘を受け、楽しみにしていた。しかし、参加企画は決まっていたものの物理的・時間的制約で関わること自体がほとんど許されなかつたことが辛かつた。事務局人員に対して土祭の事業規模の適性を考えるべきと会期準備から思う点があつた。企画を実行員会で承認する時点で人員については調整が必要であつたと思う。自分自身も事務局のフォローとなるような動きができなかつたことも非常に歯がゆかつた。
- ・自分の受け持ちの部分しか関われなかつたことが残念でした。

③限られた時間での辛さなど

- ・中学生セミナーでは準備期間が少なく、十分な教育効果をあげるための計画が立てられなかつた。また、保護者や学校へ十分な説明ができず誤解が生じていた。
- ・諸々の理由により時間と人数が限られており、辛かつた。
- ・雨の中の準備は寒かつた。
- ・普段の仕事の他に準備することが辛かつた。
- ・看板作成を依頼されたが内容が二転、三転してつらかつた
- ・プライベートな時間を費やすのは、ちょっと困る時がある。
- ・合唱の練習がきつかつた

Q4 会期中の気持ちとして当てはまるもの1つに○をつけてください。

	作家	民間	職員	合計	合計%	合計%
1. とても楽しかった	10	15	4	28	25.9	76.8%
2. 楽しかった	7	14	10	31	28.7	
3. まあまあ楽しかった	4	5	15	24	22.2	
4. 少しつらかった	2	4	5	11	10.1	16.6%
5. つらかった	1	1	1	3	2.8	
6. とてもつらかった	0	0	4	4	3.7	
7. 他（多少の不満あり）	0	0	1	1	0.9	6.6%
8. 無回答	1	1	4	6	5.7	

Q5 会期中で嬉しかったこと、辛かったことを教えてください。

《民間スタッフや関係者》

①人との交流や協力、新しい繋がりができたことに満足。

- ・ほかの出店者の人と知り合えた。
- ・手仕事村の会場の雰囲気、村民ともとても素敵でしたので楽しみながら参加で来ました。平日はお客様が少なかったのでつらい所もありました。
- ・「風景遠足」で一緒になった方たちとおしゃべりしながら益子の風景を再発見できたこと、ホテルカゴを編みながら家族ぐるみの交流ができたこと、会期中になんとか鉢合わせして仲良くなれた方が何人もできたことが嬉しかったです。
- ・毎日ワクワクしながら過ごしました。忙しさに目がまわりそうになることもありましたが、気持ちを込めてなにか取り組む人たちと、それが何であれ、一緒に経験できるのは、嬉しいことです。その様子を眺めるのも心地よい。
- ・土祭の記事が上がり作家さんからお礼の言葉をいただいたのが嬉しく、土祭が終わりそうなのに書いた記事がアップされないもどかしさもありました。

②来場者に満足してもらえたことが嬉しい

- ・お客様との会話やボランティア同士の会話、町が活気づいていて一体感につつまれ、とても気持ち良かったです。
- ・来場者から労いの言葉をいただいたこと、土祭をほめていただいたこと。
- ・たくさんのお客様が足を運んでくださり、様々な交流が生まれたことが嬉しかったです。独りでは到底できないことを皆さんの協力を得て、実現できたこと、今後に繋がる関係を築けたことも大きな収穫だったと思います。
- ・文化財の案内をすると皆さんに感謝され喜ばれたのが良かった
- ・いろいろな方に出会えて楽しかったです。特に食堂は若い方に「前回のリピーター客」があり、土祭の魅力が垣間見ることができたように思います。

- ・お客様が益子へと来ていただき、よかったです。益子町へのPRを兼ねて
- ・嬉しかったことは関係者の方が食堂に来てくれたこと、お客様にメニューや器などについて褒めて頂いたこと（アンケート用紙50枚くらいに書いていただいた）。
- 辛かったことは5日間グループ内をまとめるために少々言葉を謹んでいたこと
- ・ワークショップ参加者の笑顔が素敵でした。
- ・（光る泥団子）晴天に恵まれ、たくさんのお客様と交流、楽しんで頂けました。私もパスポートやガイドブックを元のほかの展示や食、音楽を楽しめました。
- ・「濱田の台所」で作った「ばあすちい」とペレメニは、初日の段取りが悪く時間がかかってしまいましたが、お客さんが美味しいと言ってくださったので嬉しかったです。
- ・閑散とした手仕事村で出店二日目（最終日）の終わり際にストラップ作りに5～6人の皆さんが来店にていただき、片付け半ばで、てんやわんやでした。人が沢山みえるのはやはり嬉しい。
- ・（花音）たくさんの方に見ていただけたことが嬉しかった。当日ボランティアスタッフの方々のご協力があったことだと思っています。お世話になった地域の皆様から「よかったよ」と言って頂けたことが嬉しかった。
- ・泥だんごWSは大変だけど、参加者が喜んで帰られると、やった甲斐がありました。
- ・たくさんの方と知り合いになれて来場くださった方々が喜んで帰ってくださったこと。
- ・環境とマッチしていいところだね、と言ってもらえた。

③来場者のひとりとしても楽しめた

- ・たくさん魅力的な企画がある中で、自分の担当で時間をとられ一部しか参加できなかったのは心残り、全体像がつかみにくく、お客さまへの対応に苦慮した。
- ・益子の素晴らしい風景に出会えたこと。複数関わっていたので時間がとれなく行きたい場所に行けなかった。見たいものを見れなかったのがとても残念！
- ・思ったより多くの会場に足を運ぶことができてよかった。普段はみれない作品を観て感動し、また、のんびりとした時間を過ごすことができた。
- ・参加者の笑顔と、WSを通して益子のことを伝え繋げたのはとても嬉しかったです。

④忙しくて余裕がない辛さ。

- ・（中学生セミナー）段取りをよく決めずに本番が始まってしまったので、進行が難しかったです。
- ・トイレの位置が悪かったと思う。
- ・会期が長くて仕事との両立は体力的にきつかった。
- ・手仕事村。雨で1日中止になって残念でした。手仕事村の雰囲気がとてもよかった。
- ・期間が長いので休日が休日にならなかったこと
- ・ゲリラ豪雨の中の出店（夕焼けバー）がつかかった。
- ・平日の集客方法の検討が必要だと感じました。地元の学生、近隣の学生、町民、県外からのバス旅行プランなど。
- ・朝早くから夜まで忙しかった。自分のせいだけど。
- ・後手後手で常に余裕がなく辛いばかりだった。

《作家》

①人との交流や協力、新しい繋がりができたことに満足。

- ・共同作業を通して新しい知人ができたこと。辛いことはなかった。
- ・スタッフや友達を連れてきた時の、事務局の対応が嬉しかった。非常に親切丁寧に対応していただきました。
- ・宝のような時間を複数の人と生み出し、そして分け合うことができて幸せだった。

②来場者に満足してもらえたことが嬉しい

- ・期間が長いので、再度、足を運んでくださる方がいたり、作品と土地や住民の方達との関係を深めることが出来たように感じて嬉しかったです。お伝えするまで、なかなか雨天の展示中止のインフォメーションをして頂くことが出来なかったもので、来場して下さるお客様にご迷惑をかけてしまうのではないかと、心配することがありました。
- ・嬉しかったことは、作品の前で色んな方々とお話しできたこと。
- ・ワークショップ参加者の小学生がとても楽しそうに取り組んでくれたことがとても嬉しいことでした。また、保護者の方々にも興味を持っていただけたようでした。加えて、土祭期間中の展示では参加者のお母様が会場番もしていただき感謝しております。
- ・観客からの反応が嬉しかった。いろいろ関わっていたので時間が取れず、ゆっくりと見る時間がとれなかった。
- ・ご来場いただいた方々と自分の作品を通して益子について語り合うことができたことが嬉しかった
- ・足を運んで見に来てくださるお客さまとの交流ができたことで、いろいろなことが見えてきた。
- ・(原土) たくさんの方が見に来てくれたこと。
- ・(ワークショップ) 参加して下さった方が益子の町を好きになって帰ってくれたこと。いつもの知っている場所にまだ何かがあることに気づいてくれたこと。何度も現地を歩いていた私ですが、参加者の皆さんの発見や意見がいつも新鮮で驚かされたこと。参加者の方々の発見やふとした疑問を声にだして話していくと、新たな発見に繋がっていったこと。役場のスタッフの方々が楽しんでくれたこと。さらに参加者の機材の調子が悪くなったりした時も進んで直して下さったり、参加者のお子さんたちを飽きさせずに声をかけてくれたりと私がいなくてももはや大丈夫なんじゃないか?と思えて頼もしかったこと。なので、参加者の子どもさんが黒板に高田さんの絵を描いているのを見て、嬉しかったけど嫉妬したりと複雑な気持ちになりながらも、やっぱりめちゃくちゃ嬉しかったです。(笑) 私の手が回らない所を素早く発見して対応していただきました。役場の方々には足を向けて寝れません。無事に怪我や事故なくワークショップが終了できたのも、役場の方々や町内のみなさんのおかげです。ありがとうございました。

2点不安&困ったことがありました。ワークショップ開催中に何か問題が起こった場合(怪我や事後など)、役場の方々がどのように動いてもらえるのが分からなかったことです。結果、前日の公民館での打ち合わせで、当日手伝ってくださる役場の方々と問題が起きたときの動き方を決めました。ワークショップ終了時間が18時になっていたのですが、町民の方々の予定というか都合は、17時に閉めるということになっていたみたいだったので、ちょっと困りました。ワークショップ最中に、(といっても意見交換していたので終わったと思われたんだと思うのですが)「17時には鍵を閉めたいんですが」と言われました。まだ参加者の方々がいらっしゃったので少し困りました。町民の方の気持ちも分かるのですが、せめて参加者がいないところで言って欲しかったです。場所を貸していただいているので無理は言えないのですが、西明寺公民館の利用時間の確認を開催前に再度確認しておくべきだったと思いました。てっきり、私が提示

した時間の使用可能だと思ってしていました。

③来場者のひとりとして

- ・毎日目白押しで各所でイベントが行われていて、スケジュールを見て、どこに行こうかと迷う日々がなかなか楽しかった。祭のボリューム感、クオリティともに満足できるものでした。

④ほか

- ・(原土) 展示としてはお任せしたのでありがたいのですが、ちょっと地味だった。講評会は愉しかったです。
- ・全体の構成が大きすぎて收拾がついていないようだ。
- ・会期中、自分が参加している以外の全貌が見えてこなかったことが残念でした。実際に作品を見ていただき、来場者の方とお話しができたことはとても楽しかった。その際に「何をどこでやっているかわかりにくい」と言われてしまい、自分でも即答できなかつたのもあるが、その点は残念だったと思う。(原土)
- ・(原土) 内容的には充実した結果が得られ良かったが、一部の参加した作家と準備段階で十分に打ち合わせができなかつたこと、参加作家と展示構成ディレクター間の調整が万全ではなかつたことが、少し悔やまれる。
- ・ボランティアか仕事かはっきりしないから義務と責任をどう果たすか分からなかつた。

《職員》

①人との交流や協力、新しい繋がりができたことに満足。

- ・一緒に手仕事村の準備・運営をしてくれた方々がみなさん親切だった。
- ・町内外の職員以外のスタッフと交流をもつことができたことが嬉しかった。
- ・お客さんと親しくなれると嬉しい
- ・たくさんの方と会話ができただこと。

②来場者に満足してもらえたことが嬉しい

- ・案内をほめていただきました。
- ・たくさんの人から「楽しかった」と言われたこと
- ・展示物について、お客さまから「すごい」と言っていた。
- ・みなさん笑顔で見学に入り、笑顔でお礼を行っていかれました。

③担当した企画での満足感

- ・(セミナー) 中学生が益子の魅力を真剣に考え、自分の言葉で発表できた。ファシリテーターとの打ち合わせ時間がとれず、進行は予定通りに行くか心配した。
- ・お客様の目線で、どんな風に土祭を楽しんでいただけるか、サインや案内など修正を繰り返しながら行った。提案したことが採用されたり、お客様に土祭を楽しんでいただけるお手伝いできたというところに達成感。一方で、もっとやれることがあったと思う点が沢山あった。
- ・自分の担当したところを良かったと言ってもらえると、やっぱり嬉しかったです。当日に体調を崩してしまい、個人で会場を回りきれなかつたのが残念でした。
- ・土祭合唱団の歌声が人々の感動を誘ったと聞いた時、大きな達成感があった
- ・中学生セミナーが好評だったことで、益子町の将来への展望が開けた思いだった。

④来場者のひとりとして

- ・自分の知らない益子を知ることができた。スタンプラリーもゲーム性があった。土祭や作家の意図するところが自分なりに解釈した。解釈できた。
- ・知らなかった益子の自然に触れることができ、嬉しかったです
- ・ウォークラリー形式は、スタンプを押す目的もあって楽しく取り組めたが、歩いて回れる範囲ではなく大変だと思った。
- ・東京に住む孫たちとスタンプラリーなどをしながら目一杯益子を楽しみました。孫たちにとって自他ともに益子は故郷。
- ・手仕事村の雰囲気が良かった。のんびりして長い時間いられた。

⑤時間不足、説明不足

- ・会期が長く、準備をしながら本番を迎えたため、時間との戦いが辛かった。
- ・受付の説明がマニュアルだけだと不安なところもあった。
- ・住民の方からのクレームを聞くことが少し辛かった。
- ・事前の説明会もマニュアルもなく当日の打ち合わせすらまともに無い中の仕事は不満だけでした。それに、気づいたことを伝えても周知されないのはどうかと思いました。
- ・土祭の全体像を十分に理解できていなかったことが少し辛かった。
- ・事務局では把握していても、私たち協力員にまで、きちんとした情報が届かず、という場面が多かったように思う。受付では、お客様の問い合わせに初めて知る情報などもあり困ったこともあった。
- ・つらかったことは、観光商工課の職員が体調がすぐれなくても休みなく土祭にあたっている姿を見ることがつらかった。

《土祭の基礎とした風土・風景プロジェクトのこと》

Q6 このプロジェクトにどう関わりましたか？ 該当するものに○をつけてください。(複数回答可)

		作家	民間	職員	合計
1 踏査や聞き取り、情報提供に協力		4	6	2	10
2 「地域ごとに風土・風景を読み解くつどい」に参加		10	14	17	37
3 つどい「報告会」に参加		7	12	8	26
4 各地区の「基礎資料」を読んだ	公式ウェブサイト	1	5	2	7
	会期中に展示で	1	2	7	10
	事務局からの配布で	8	5	7	18
	ほか	0	3	1	4
	無回答	1	0	0	1
5 会期中に「元むらた民芸店」の展示に足を運んだ		4	12	12	27
6 そのほか		3	0	0	3

Q7 このプロジェクトを基礎としたことの土祭への効果をどう考えますか？（どう評価しますか？）

	作家	民間	職員	合計	合計%	合計%
1. とてもよい効果があった	5	7	3	15	13.9	77.8%
2. 効果があった	11	11	11	33	30.6	
3. まあまあ効果があった	4	12	20	36	33.3	
4. あまり効果がなかった	0	2	3	5	4.6	6.4%
5. ほとんど効果がなかった	1	0	1	2	1.8	
6. 無回答	4	7	6	17	15.8	15.8%

「効果あり」の理由。どのような点で、そうお考えですか？

《民間スタッフおよび関係者》

①土祭への参加意識が高まり「町民のための祭り」になった。

- ・このプロジェクトのおかげで、町民の「やらされる側から、やる側へ。」という意識と、わからなかった土祭とは？の町民の理解度が増した。町の良さを町民みんなで考えたことにより協力してくれる方がすごく増えたように感じました。イベントを「城内」などに集中させず、いろんな地区にリーダーを配置したことも協力者を増やしたと思いました。
- ・益子で土祭を開催することの意義付け、町内全域を対象とすることで、直接工芸や観光に関わらない町民の方にも参加するきっかけや主体的に楽しむ意欲が生まれたのではないのでしょうか。
- ・町民の益子再発見！ 土祭への参加意識が強くなったと思う。
- ・これをきっかけにして上大羽では地域ぐるみで取り組んだし、西明寺、城内、田町など期間中に自主的な取り組みをする地区が増え、夕焼けパーには、塙・内町などの新規出店組があり、まあまあ効果があったと思う。ただ無関心な町民と知らない町民がまだまだ多いのが残念。
- ・住民多くの参加で、意識の向上につながっていく。
- ・町民全員の参加で、地味ではありますが、益子ならでは、です。
- ・益子のみなさんの意識が土祭に向かっていったから。
- ・地域の人達を巻き込む事ができたと思います。
- ・今回は町民主導の感があったから。(反面、観光客が前回より少なかったようだ)

②地元への理解が深まった

- ・中学生たちも（セミナーで）インタビューを行うことによって、客観的な視点から益子を見つめ直すことができ、風土への理解がより深まったように思います。
- ・益子町に住んでいても全域のことについては無知だったので、土祭のこのプロジェクトを通し学ぶことができたと思いま

す。効果とは？と問われると、まだまだ農村部においては浸透するには時間がかかると考えます。

- ・今まで知らなかった気付かなかった益子の良さに気付かされました
- ・益子に20年以上住んでいても行ったことのない場所で、こんなにいい所があったんだ！と益子を再発見することができました。
- ・自分のまちを知識をもって観察してもらい、自分のこれまでの考え方が幅広くなったと思える。

③次に繋がる、ふだんの地域づくりに繋がる

- ・当プロジェクトは土祭だけではなく普段の地域づくりに生かされるべきと考えます。そのきっかけとして土祭に活用されたのであれば、評価されると思います。
- ・環境や地域で生活する人々が、生き生きと語られている。景観は、人が生活を続ける中で育てられるものと考えます。
- ・自分の住む地域の小さな歴史を知ることで愛着がわき、ここに住む意味や、この先の生き方にプラスになっている。よい試みだと思いました。
- ・このプロジェクトを通して、暮らしの歴史、人の生きていく歴史に、各人が心を向けることができたことが、これからも風土を作っていく私たちには、道しるべのヒントになるのだと感じました。
- ・単なる一過性のイベントとしてではなく、益子町の風土や風景に根ざした祭りとして育てていく、そのために遠回りであっても、地域住民とコツコツと積み上げていくという強い意志を感じる事ができたからです。そういった意味で、廣瀬さんの風土形成ディレクター就任、その活動は、比類ない成果を挙げたと思います。また「土祭 2015 方式」を支えてスタッフの皆さんの穏やかな熱意と軽やかな身のこなしは、これからの土祭の盛り上がりを楽しく想像させるものがありました。ただ心配に思えるのは、地域間の温度差を感じる場面がないわけではなかったこと、あまりに実直で地味な取り組みが正当に評価されるのだろうかという不安があります。
- ・今回、これまでになく、町の人たちが土祭について、自分の言葉で語っていたような印象を受けました。FB での投稿なども連日！！溢れんばかりにあって驚きました。良い評価だけでなく、批判なども耳にしましたが、関わったうえで真剣な批判というのは、今後、更に内容を深めていくうえで、とても貴重なものに思えます。これまでの積み重ねも含めて、生活に密着した形での祭りとしての第一歩だったのかな、と感じました。一時的なイベントではなく、日常の営みをすくいあげ、新たな日常に繋がっていく試みに共感しました。

④益子ならではの企画に繋がった

- ・益子ならではの作品づくりに欠かせないプロジェクトであったと思います。またそれを上手に引き出せる環境であることも重要です。そしてそれらを表現する術としての土祭は素敵な時間をみんなで共有できるものだと思います。
- ・風景遠足の実施や大羽地区、山本地区での取り組みに効果があったと思えます。

⑤ほか

- ・「まあまあ」にしたのは、町民の祭として広げるため、風土や歴史を知ってもらいたい気持ちはわかりましたが、色々詰り込みすぎた感がありました。3年に1度という事もあるかと思いますが、もう少し小出しにしてもよかったかと。

《作家や登壇者》

①益子への理解が深まった。作品作りや企画に役立った

- ・このプロジェクトのおかげで「益子に生きる人たちの為の祭り」というコンセプトに近づいてきてくれた感じがした。自分の住んでいる地区でも、まだまだ知らないことばかりなので、若い人でもその地域や益子に興味をもつきっかけになったのではないかと感じた。
- ・私自身は郷土を読み解くことによって益子の地に親近感や愛着が深まり、もっと知りたいと思いましたし、より良い町になってほしいと思いましたが、まだ浸透はしていないし、かかわった人たち一部の影響だったように思います・
- ・益子町の風景・風土を考えることから、ゆるやかに展示のテーマに反映されていると思います。
- ・このプロジェクトもとに作品や催しを行うことで、来場者や作者同士など様々な人たちの間で、益子という土地に関する対話が生まれたから。
- ・地域の人の暮らしや歴史、文化など、生の声を聞くことができ、肌で感じることができた。
- ・もっとたまってきたら、町の方で書籍化などしても良いと思う。
- ・住民が参加できる可能性を増やせたから。
- ・地域の事が理解できて良かった。土祭企画への地域の参加が新たに始まったことも良かった。
- ・益子という土地に関心もてた。

②土祭への参加意識が高まり「町民のための祭り」になった。

- ・住民の土祭への参加意欲が高まった。
- ・少しでも土祭を理解しあえたと思います。
- ・住民が参加できる可能性を増やせたから。
- ・各地区の住民たちが「自分のこと」として自分の土地の風土や土祭のことを考えるきっかけを作ることができた

③複合的感想

- ・効果があったと思う、なぜなら地方創生を実践しているから。
- ・聞き取りにより、消えかけている声を拾い、多角的な視点から一つ一つの地域を読み解き、整理、保存できたことは、町の人々の今後にとっても価値のあることだと思います。また、つどいの場には2度参加しただけですが、町の人々の地域に対する思いを熱量とともに感じることができました。そうした場を共有することで、参加した人の意識に変化がもたらされたのではないかと思います。また纏められた資料は、初めての土地に入り込む上での多角的な地図として機能しました。ただ、「表現の基礎」となるものは、作家や、プロジェクトを企画する人間が、それぞれの足で地域に入り込み、自らの感性でその土地や人の話を見聞きし、血肉にして初めて得られる物だと思っています。今後、作家がそうした活動をしていけるような、運営側からの援助が必要になってくるように感じました。
- ・過去2回の土祭にどのように参加したらいいのか分からなかった町内の方々が参加するきっかけになったのでは。東京や他の地方から土祭に来る方々にとって、このプロジェクトの成果をガイドブックや会場で知るとは、益子の町や人、そこで生活している人を知る・感じるができる内容だったように思います。この資料があったことで、私は参加する企画の方向性を知るうえでとても役に立ちました。
- ・つどいで土祭の事務局の方達や廣瀬先生の真摯な姿勢に触れることが出来、住民の方達の思いや活動を知ることも出来

て、作家として、益子の土祭で展示表現することへの喜びや、やる気を頂くことが出来ました。つどいを通して益子の住民の方達の中でも、いろいろな出会いやつながりが出来て土祭が奥深いものへと変わっていているのではと思いました。

④提案など

- ・もっとたまってきたら、町の方で書籍化などしても良いと思う。
- ・各地区だけでなく、土祭中に色々な地区の方々が一同に多く集まれる場所にて講演されると、より効果が上がると思いました。
- ・初めての試みで意味があった。が、次回おなじことを繰り返すとしたら繰り返す必要を認められない。

《職員》

①土祭への参加意識が高まり「町民のための祭り」になった。

- ・今回は、土祭への地域住民の関わりが今まで以上にあったのでは。
- ・町民の方々に「土祭とは何を目的にしているか」を理解してもらうきっかけになったのでは？

②地元への理解が深まった

- ・地域に住んでいても知らないことが聞けた。知るということは楽しい事。その土地をより深く親しみがわく。
- ・益子に住んでいても知らないことがたくさんあったので良い機会でした。土祭期間中の効果と言われるとピンとこない
- ・地元の人が地元の風土を見直すという点では効果があったと思うが、土祭としての集客、盛り上げへの効果はなかったような気がする。
- ・町の新たな魅力に触れることができたため。普段はあまり訪れる機会がない場所へ行き、アート作品を通して時間をかけて、その土地を見つめるきっかけになった。
- ・各地域で新しい発見があったから。
- ・町内の住民でもこんなところがあったのか、と思えるところがありました。作者の方に会いに来る方もいました。

③複合的感想

- ・私の知り合いに土祭に対して懐疑的な方（七井地区）がいた。その方は風土風景を読み解く集いを通して、集いや土祭の企画に参加するなど、土祭に積極的に取り組んでいた。土祭の意図することが地域の掘り起しを通じて伝わり、参画（行動）に繋がった事例であると思う。また、集いを通して、地域の方が昔話の昔話（おじいさんが自分のおじいさんから聞いた話など）に饒舌になり会場に和が生まれる瞬間は開催地区にとっても良い効果があったと思う。集いをきっかけに加工品開発（小宅の菜種油）をしよう、農産物を売ろうという地域のまとまりも生まれつつあることを考えれば、地域情報の集約作業を通じてコミュニティ支援にもつながる、また土祭が益子の町民の祭りとして受け入れられる素地を整える事業として、継続的に実施することが望ましいと思う

④益子ならではの企画に繋がった

- ・効果があった。風土・風景のつどいや報告会で聞いて感じたことが、実際の土祭で体感できていたから。
- ・前回はなかった新しい企画につながっている。

⑤提案ほか

- ・バックストーリーとして聞くと、土祭への理解が深まると思う。

- ・開催期間中の展示の直結したのもあったので、これから他の展示にも拡げていければ良いと思う。
- ・参加者がいた＝需要があったのだと思います

効果がなかった、わからない、理由

《民間スタッフ・作家》

- ・質問がよくわかりませんが、土祭り自体が元々、風土というテーマがあったかと思います。ただイベントが細分化しすぎて、結果、まとまりがなかったように見えます。
- ・地域の力が発揮できているのかはくみ取れなかった。
- ・町外なので、成果についてはわからなかった。ホームページが見つらなかった。
- ・自分自身で「土祭 2015 方式」に携わっている実感がないから

Q8 土祭 2015 の企画内容で、今後も日常的に続け、次の土祭へ繋いだほうがよいと思うものを、以下の中から上位3つだけ、番号に○をおつけください。

	作家	民間	職員	合計
1. 風土・風景を読み解くプロジェクト	12	17	6	35
2. 土祭風景遠足	4	9	3	16
3. 古い建物や屋外での作品の展示	8	16	20	44
4. 益子風土学セミナー	7	6	4	17
5. まちなか映画館 太平座	6	3	4	13
6. ゲストハウスプロジェクト	1	1	2	4
7. 土や左官系のワークショップ	6	12	16	34
8. 土舞台 月待ち演奏会	4	10	11	25
9. 夕焼けバー	10	11	19	40
10. 益子手仕事村	2	7	14	23
11. 土祭食堂（地域の方が交代で出店）	3	7	6	16
12. 地域の自主的な企画	4	13	2	19
13. ほか	0	0	0	0
14. 無回答	0	0	0	0

理由などありましたらご自由にお書きください。

《民間スタッフや関係者》

①古い建物や屋外での作品の展示

- ・3はアートとの融合によって建物や風景の勝ちや素晴らしさの再発見につながると思う。9は会場の雰囲気もよくお客さまも喜んでいたので、7と10は益子らしさが感じられたため
- ・1と3。今まで行ったことのない場所での展示では、益子ならではの風景が見られ、とてもきれいな景色に心がいやされました。
- ・その土地、建物での展示は、アートプロジェクトっぽくて良いと思いました。
- ・3、環境芸術を日常化する。5、映像文化を日常化する。

②夕焼けバー

- ・「夕焼けバー」では、普段はあまり口にできないパースチーなど益子に由来がある食べ物が多くの人に知ってもらえるといいと思います。
- ・夕焼けバーが両親に大好評でした。

③風土・風景を読み解くプロジェクト

- ・その土地の方が、その土地のことを知るきっかけは重要です。
- ・「風土・風景を読み解くプロジェクト」「風景遠足」「地域の自主的な企画（散策路案内など）」の継続を希望。地域から地道に広げていくことが必要だと思う。
- ・3については、今回の会場が、益子に住みながら行ったことがなかった素敵な場所が多かったのもっと色々なところも見てみたい。
- ・「風土・風景を読み解くプロジェクト」と4「益子風土学セミナー」の、地域づくりの根幹をなす取り組みは今後も続けるべきと感じる。
- ・益子ならではの「風土」や焼き物、その「土地」でしか味わえない体験はぜひ続けていっていただきたいです。
- ・1は皆で作る上げる、というのが良い。
- ・「土祭風景遠足」は、観光資源の掘り起こしになると思う。
- ・風土・風景を読み解くつどいは、地域住民として、一町民として楽しかったから。また、長く続けていくことで醸成されていくものがあるから。風土という切り口が土祭の大きな可能性を予感させるから。
- ・1が、多くの町民が関わりやすいかと思います。
- ・1と3。今まで行ったことのない場所での展示では、益子ならではの風景が見られ、とてもきれいな景色に心がいやされました。

④そのほか

- ・「ハレとケ」があると思います。日常的に続けずとも次回もやりたいこともあるでしょうし。次回のことに関係なく続くこともあるのでは。続くことは形を変えても自然と続くような気がします。それが文化ではないでしょうか。益子には益子の文化があるし、新たな文化もきっと生まれます。いろいろなことを大人だけでなく、子どもにも伝えて「いいね」と思って欲しいです。

- ・町内各地でさまざまな催しがあり、各分野で多才な人たちや普通の町民が協力して手作り感満載でした。
- ・1.3.9. 多くの町民が参加、楽しめるもの。
- ・土祭食堂は、ベテラン主婦の方の安心できる料理が良かったです。そんなお店があってもいいかなと思いました。夕焼けバーは多くの町民がいらして賑わっていましたね。益子は夜に遊びに行くところもないので、毎週出なくても月に一度なり、そういったイベントがあってもいいかなと思います。その時に町民の方（お友達）が出る演奏会があると盛り上がると思います。
- ・（ワークショップや地域の取り組みは）比較的参加しやすいイベントだったから。まずは参加しやすいものを。
- ・6と7は参加できなかったのわかりませんが、他はみな、地域を見直す、興す、という意味で必要なものだと思う。
- ・町内の文化、風土を知る、調べる、体感できる機会になりました。スタッフ不足については、県内学生の授業やインターン制度化をすることで補えるのではないかな？
- ・予算をかけずに地域の方がやりたいことをやりたいようにやるのが一番かと。・8,9,10 町外の人にも受け入れられやすい内容だから、大人から子どもまで楽しめると思うから・7の光る泥団子は、すっごく人気だったので大人にも、子供にも。・来場者が喜ぶ企画を優先すると良いと思う・すばらしいものを持っている年配の方がとても多く、それを披露できる場として土祭食堂は良い企画だと思いました。年配の方は元気でイキイキして見て元気になりました。そういう方から昔の益子の暮らしを教えていただいたり、これからのことを一緒に考えることは大事だと思います。
- ・2（風景遠足）、Q8でお答えしたように角度を変えて自分の町を見つめることは意外と楽しいものです。様々な企画があっというように思えます。

《作家や登壇者》

①古い建物や屋外での作品の展示

- ・3、8、12は土祭にとってもよかったです、益子らしくて。

②夕焼けバー

- ・9は夜の拠り所としてあってほしいから。
- ・夕焼けバー。今回は夕焼けバーに行けなかったものだから
- ・風土・風景を読み解くプロジェクト。夕焼けバー。住民参加型の企画は継続すると良いと思います。

③風土・風景を読み解くプロジェクト

- ・上記の1「風土・風景を読み解くプロジェクト」と4「益子風土学セミナー」は土祭がないときにも続けるとまだ知らない益子の土地がもっているポテンシャルを発見することに繋がりそうだから。5は今後も続きそうだなと思えたから。
- ・1の風土・風景を読み解くプロジェクトは、町を知ることによって、郷土愛が育まれていくと思いますし、土祭の力になっていくでしょう。手仕事村は観光客にとって魅力的です
- ・風土・風景を読み解くプロジェクト。夕焼けバー。住民参加型の企画は継続すると良いと思います。
- ・すべて次に繋いだ方が良いと思いますが、特に1は、益子の各地区の子供たちが中心となって自分たちの住んでいる、この町の風土風景を今回のようなやり方で読み解き学ぶプロジェクトをやっていただきたいです。
- ・読み解くプロジェクトは、廣瀬さんのような専門家が継続、リードしていかないと無理か。風土学セミナーは内容や人材など続けていく必要があると思った。

- ・土地を知る、理解を深めるという行為は、継続することで意義が生まれるから。また、それを出力する場所として展示を行うことは、3年に1度という頻度では少ないと思うから。

そのほか

- ・1から12まで 継続して行うことにより、また違う益子の未来が見える可能性があると思う。
- ・全部に参加していないのでなんとも言えないが、「益子風土学セミナー」は益子の陶芸の発展に寄与している・まちなか映画館、夕焼けバー。人が集まる機会として有効な印象を持ったから
- ・質の高い展示や特色あるワークショップなどは益子へのリピーターを育てられると思います。
- ・土舞台をもっと活用すべき、映画は益子に映画館がないので、たまには良いかと。
- ・より益子という土地を深く感じ、先人の知恵や経験を後世に伝える場にしていただき、益子をより文化的な深い厚みのある町にしていくツールとして頑張っていたきたいと思います。
- ・自分が参加したので。

《職員》

①古い建物や屋外での作品の展示

- ・3.8.9 日常的に行うことはしなくてよいが、次回もやったほうがよいと思います

②夕焼けバー

- ・夕焼けバーは雰囲気もよく楽しめる
- ・7.9.10 自分の手、誰かの手で作ることの温かみを強く感じられたから。

③風土・風景を読み解くプロジェクト

- ・風土風景を読み解くプロジェクトについて。既存の町内のイベント（陶器市や町民祭など）等で焦点を当てられることが少ない「益子の風土を生かした企画」は土祭ならではのものなので継続して欲しい。他の課の事業では横断的に学的にも深めていくことは困難である。

そのほか

- ・3、5、9、11 今までより交流が生まれるのではないのでしょうか。
- ・益子町内の回遊性を高めるため、地域内に作品を配置することや、散策ルートとして風景遠足をもとに案内することは、日常と土祭の取り組みを繋げる役割を果たすと思う
- ・7、8、10は、作り手や発表する側と参加する方の両方が出会える場所だから。

Q9 公式ガイドブック『土祭という旅へ』やウェブサイト、ポスターへのご意見ご感想を教えてください。

《民間スタッフや関係者》

①ガイドブック・パスポート&マップ

- ・公式ガイドブックは、ガイドブックとしても読み物としても、とても丁寧で作られていて、この祭りの根底に流れているものが伝わってきました。プログラムの内容を広く伝えるためには、パスポートのみを購入された方にも、無料で手に入る簡易的なパンフレットが必要だったのでは？と思います。
- ・町内のすべての世帯にガイドブックを配布されていましたが、自分の身の回りの方々からは、なかなかの不評でした。その一番の懸念は土祭の利益が町にきちんと還元されているのかという点でした。町の方々に理解、協力を得るのに、冊子を配るのは逆効果だったかもしれません・・・
- ・ガイドブックは、本当によく取材をしているなあと感心しました。取材される方の気持ちに添って書かれている文章が印象的でした。お疲れさまでした。
- ・公式ガイドブックはしっかりとしたボリュームがあり充実したものだだった。
- ・ガイドブックは、ていねいな取材に基づき、里山の景色や作家・町民の息遣いが強く感じられました。
- ・ガイドブックはとても素敵な本だと思いましたが、どこで何をいつやっているのか、わかりづらかったです。ヒジサイシンブンに載っていたようですが字が小さすぎて読みづらかったのでガイドブックか地図にもっとわかりやすく記載したほうがいいと思います。
- ・読み応えがある、写真がとても綺麗。ただ、展示物に関するものを載せたほうがよい（展示に近い過去の作品でも）マップとの関連性とわかりやすくしてほしい。
- ・難解である、という理由で捨ててしまったという話を何人かから聞いた。アレルギー反応か？
- ・「土祭という旅へ」はとても丁寧に作られていて読み応えがあり、益子の美しさが伝わる素晴らしい本です。パスポートが、地図や展示やイベントのスケジュールが分り辛くて、もっと工夫していける可能性を感じました。
- ・もう少し全体を見ることが出来るマップをわかりやすくお願いしたい。外人向けのガイドも用意したほうがよい。
- ・パスポートが、地図や展示やイベントのスケジュールが分り辛くて、もっと工夫していける可能性を感じました。
- ・ワクワクできて、きれい。でも、地図がややわかりにくいという話を何度か聞きました。私も同感です。
- ・デザインがとても素敵です。益子らしさが出ています！ただ地図が少しわかりづらかったです。

②ウェブ

- ・ウェブサイトも美しく見応えのある内容でした。あまりに情報がありすぎたせいか、限られた時間で内容を把握したい人にとっては、逆に分かりにくいというジレンマもあったのかなとも思いますが、取材記事はとても充実していて、心ある内容に動かされました。
- ・ウェブサイトは、リニューアルされるまで待ち遠しかったです。
- ・ウェブサイトの中の検索がわかりづらかった。また屋外展示の場所がわかりにくい。もともと目印がないところが多いので仕方ないかもしれないが地元の間でも地図上で見つけるのが難しかった
- ・ウェブサイトは見にくかった

③そのほか・複合的感想

- ・まだあまり見ていないので、特に感想はありません。
- ・ガイドブックとパスポートの関連性がわかりずらかった。
- ・ガイドブック、マップ、スタンプ台紙をまとめて欲しかった。日ごとのイベントをわかりやすく記載してほしい。
- ・町外の方から、開催場所の名前が公の地図にないのでわかりづらいという声をいただいた。
- ・紙媒体等のアナログ手段での情報発信に物足りなさを感じた。
- ・デザインは美しく中身も楽しいものでしたが、わかりやすさは良いとは言えず、どちらをとるか難しいところです。情報が揃うのが遅かったというのも原因かと思いますが。
- ・あまり印象にないかも。
- ・ワークショップを1つにまとめたスケジュールなどのプリントがあると良いと思った。
- ・文も写真もデザインもステキです。
- ・おしゃれだけど、情報がわかりにくかった。
- ・ポスターはカッコいいと思いましたが、もう少し人が笑っているほうが良いと思いました。ウェブサイトは、以前より見やすくなり、イベントごとに詳細に飛べるのが良いと思いました。ガイドブックは文章に引き込まれ、ヒジサイシンブンは、わかりにくいイベントの開催日時を、わら半紙にまとめて紹介したのも良かったです。
- ・みんなで作ったストーリーが「カタチ」になった感が出ていて愛着がわきました。

《作家や登壇者》

①ガイドブック・パスポート&マップ

- ・公式ガイドブックは益子を知るうえでとても濃厚なガイドブックでした。素晴らしいと思います。ただ、作品を観て歩くには中々調べずらい所もありました。ヒジサイシンブんと入場パスポートが一体化されてると、会場めぐりやすいように思います。ちょっとサイズが大きくなってしまいますが。もしくは、ヒジサイシンブンがもう少し見やすいとよかったです。
- ・ウェブサイトについては、コンセプトは良く伝わり、すっきりしていて綺麗だけど、具体的に何をどこでしているのか見えにくい。という声を多くききました。ガイドブック。読み物として素晴らしく、風景をより深く読み解く手がかりとなったと思います。ただ、実際にこの風景はどこへ行けばみれるのか、展示はどこか？どう動けばいいのか？など、特に市外の人々にとっては、ガイドブックとしての具体的な機能が欠けていたように思います。
- ・ガイドブックは豪華すぎに思われます。来た人が、行きたいところ見たいものがすぐ見つけられる、その企画の魅力を丁寧に解説した、わかりやすいガイドブックが必要だと思いました。
- ・ガイドブックはコンテンツがひとめでわかるような工夫があれば、もっと住民の興味が高まったように思った。ボリューム多すぎ。
- ・地図の絵はとても素敵だったのですが、もう少し説明的であるといいと思いました。
- ・ガイドブックとマップが繋がっていない。
- ・ガイドブックは内容、質ともに満足できるものでした。町としての美意識を育てる事は長い目で見た場合のかけがえのない財産だと思います。

- ・ガイドブックは大変素晴らし参考図書だと思いますが、ガイドブックではなかったと思いました。地図もわかりやすく、作家が何をやっているのかがほとんど伝わってきませんでした。理念は素晴らしいのですが使い分けをしたほうが良いと痛切に思いました。
- ・公式ガイドブックに会場の地図がなくて困りました。私のようなインターネットに無縁な者にとっては致命的欠陥です。これはある意味、弱者への配慮がたりないと思います。
- ・見る読む分にはとても良いガイドブックですが、足を運ぶにはわかりにくいです。

②そのほか・複合的感想

- ・ガイドブック、ポスターはとても綺麗に仕上がりにいいと思います。ウェブサイトは土祭後の結果をわかりやすく載せてほしいと希望します。例えば各作家全員の作品の全体像の空間写真など
- ・少し解りづらいと言う人がいました。
- ・感想は、ガイドブック、ウェブサイト、ポスター、関連書物の出来は素晴らしい。すべてのグラフィック処理は完璧と思います。
- ・とても洗練されたデザインで、まずビジュアルから興味を引かれると思います。
- ・印象(イメージづくり)としてはよかった。情報のみやすさには改善の余地があると思う。
- ・具体的な内容が見えない。わかりづらい。ガイドブックを町民全員に配るのはおかしいと思う。
- ・3回目を迎えて手慣れた感がある
- ・ガイドブックがわかりづらい。ウェブサイトはお客さんから聞いて自分が参加したいものにたどり着くのが大変と言われた。ポスターの枚数が少ない。
- ・とても素敵に仕上がっていました。とても見た目はカッコよくできていた。しかしウェブサイトもガイドブックも一般の方からは分かりづらくどこで何をどの時間でやっているのかわからないという感想をいただきました。自分も同意見です。タイムシフトなどはしっかりと一目でわかるようにしたほうが良いと思います。
- ・全体として、とても良くまとまっていました。

《職員》

①ガイドブック・パスポート&マップ

- ・ガイドブックは読み物として、加守田昌子さんや濱田篤哉さんの話など興味深い物がたくさんあり非常に面白かった。
- ・ガイドブックは読んでいて面白かったですが会場でなかなか売れなかったのが残念。
- ・土祭の導入としてのガイドブックは必要と思う。会期前など公式WEBで展示情報やアクセス、ガイド等のインフォメーション(広報)が行われるような、余裕ある事務局体制が必要と思う。
- ・ガイドブックはマップの番号とれんどうしているなどお客さん目線での作り方にしたほうがよかったのでは。
- ・公式ガイドブックは見づらい
- ・ガイドブックは、せっかく良いものができたので、多くの人の目に触れる形がとれると良かったが。販売した結果はどうだったでしょうか。
- ・ガイドブックは内容が濃く、いろいろ分かり、よかった。オンチャレで見たいも素敵。
- ・mapに記載の番号とガイドブックの各展示の詳細がリンクして、ガイドブックにも番号があると見やすいと思った

- ・ガイドブックは、とても面白かったが、文字が小さい。イベント番号とリンクしているとみやすい。
- ・地図が見にくい（分岐には目印がほしい）
- ・展示イベントが数多く各地で開催されていたが、ガイドブックだけではわかりづらかった。
- ・全媒体において、デザインが良かった。ヒジサイシンブンのようなタイムスケジュールがガイドブックの中にあればよかったと思う。

②ウェブサイト

- ・ウェブサイトは、スマホで何回かアクセスしましたが、みたいイベントになかなかたどり着けず、使いにくかったです。
- ・ウェブサイトはおしゃれだが、重く開くのにかかり、また、会期中などに必要なイベント会場と開催日時などを調べるのに見つかりにくく不便さを感じた。
- ・ウェブサイトは、恥かしながらあることを知らなかったのもので、ウェブをチェックするように、もう少し早めに指示してほしいかった

③そのほか・複合的意見

- ・ここでこの展示をやっているというのがわかりづらい
- ・字が小さいのと文字が多すぎる、もっと写真を。
- ・ポスターは、地域の方々が写っていて、味があった。・オシャレでかっこいいと思う
- ・写真がきれいだと思います。
- ・益子の町民でも、素敵だなあと思えるものでした。
- ・写真がすてきでした。
- ・非常に洗練されていて、芸術の町にふさわしい内容である。
- ・ウェブサイトやポスターは周知のため、もうすこし早く情報を流すほうがよかった。
- ・お金がかかりすぎている。
- ・ガイドブック、地図、ポスターなど、もう少しリンクするものだとわかりやすいと思った。マップとスタンプ台紙は、別の方が使いやすいと思います。

Q10 ご自身の土祭での関わりについて、反省点、次回への抱負などありましたら教えてください。

《民間スタッフや関係者》

- ・今回は仕事を抱えつつ、同時並行で3つの企画に関わっていたので、キャパオーバーゆえに人任せにしてしまったところが多く、もう少しじっくりと1つの企画に集中できた方が良かったのかもしれませんが。それでも、祭りというものの奥深さを改めて感じさせられ、とても贅沢な体験をさせて頂きました。ありがとうございました。今後も何かしらの形で関わらせて頂けたらと願っています。
- ・上大羽の文化財案内に9日間（土日休）。あまり全体を見ていないのが残念。
- ・「花音」についての詳細なことを前もって調べておくべきだった
- ・今後もできる限りの協力をさせていただきたいと思います。

- ・ちゃんとやりたい…が、現実的にボランティア状態では時間的にしんどい。
- ・今後も参加したい。
- ・まだまだ力不足なので日々精進してこれからの、魅力的な町作りに協力して行けたらと思っています。
- ・打ち合わせで何度か益子を訪ねるなかで、町民の方から「なんのために土祭をしているのか」という質問が聞こえました。その方は反対しているわけではないが、あきらかにご自身が土祭に関わっていない者として尋ねたと思います。少し残念な気持ちと、その問いは、いつまでもどこまでも問い続ける必要があるかもしれないと思いました。その問いに対する答えが輝いている限り魅力あるものであり続けると思います。もしかしたら役場内でも賛否両論あるんじゃないでしょうか？ 賛成だけのことはつまらない。「これだから嫌だ」はこうしたらより良くなるヒントです。また、何かを変えたら何かを失う。イベントは生き物ですよ。そこに続けられる楽しみがあると思います。また関われる機会があるといいなと思っています。
- ・今回ワークショップでしか参加できなかったのが、泥だんごはもちろん！ほかの企画など、また機会があったらぜひ参加したいです！
- ・町外在住の者ですが、2012年に続き参加させていただき、十分に楽しめました。広く老若男女が関わり、陶芸作家さんとも親しく交流できました。ありがとうございます。また3年後が楽しみです。
- ・複数関わってしまった事で（1つは準備期間が長かったこともあり）しんどかったが、それ以上の充実感もありました。
- ・がんばりました。
- ・地元において、まだいろんな知らないことも土地もあり、いくつか関わることで知ることができて良かった！
- ・夕焼けバーでは器も益子焼で提供することを高く評価してもらっている。購入したいという方もいたので、そういった方のニーズに応えられるようにしたい。
- ・私自身、基本的には土祭全体を楽しめたと思います。
- ・ほんのお手伝い程度の関わりでしたが、楽しく参加できました。
- ・完璧ボランティアなので、ほどほどに参加。誘われなければ参加しません。
- ・仕事面とプライベートでめいっぱい関わらせていただき、充実した日々でした。ぜひ続けていただきたい祭です。次も楽しみにしています！
- ・範囲を広げすぎたようです。観光客が込んだところもあれば、まばらなところもありました。（上大羽はバスに乗ってくる人がいませんでした）
- ・ワークショップを担当させていただいたが、日程調整つかず参加者が少なかった。
- ・何でも参加しすぎた。もっとやりたいようにやれたらよかったかな。
- ・余裕のない状況でも楽しめるスキルを身につけたり、一歩引いたところから参加したい。
- ・なんらかの関わりを持ちたいと思いながら時間が過ぎていきました
- ・もっと熱く取り組めたらよかったかな、と。つまり、じっくり味わうということ。
- ・ブログの担当として写真は本当はもっと美しくもっと魅力的だったのにと反省し、ライトルームの勉強を始めました。また、大好きな粘土に触ることもでき、光る泥団子の先生としても2回目、前土祭より上手になりました。もし次回があるなら私のできることでお手伝いしたいと思います。
- ・個人的には横（他企画）との繋がり、連携を持ちたかった。

《作家や登壇者》

- ・少人数のワークショップだったのですが、1回あたりの参加人数を増やすとなると、対応出来ない部分が多くなるので、今回の人数がベストだったのかもしれないと感じています。沢山の方々に体験してもらうワークショップの方が、運営の方々には良かったかもしれないと思うと、お役に立てず申し訳なかったと思います。ワークショップの内容が伝わりにくい部分があったと思います。参加者をつのる方法や動き方ももう少し考える必要があると思っています。今後の反省とします。
- ・展示場所で演じさせて頂いたパフォーマンスの予定を決めることが、直前になってしまったので、開催前にもっと早めにきちんと予定を立てていれば、事務局の方達にもご迷惑をかけずに落ち着いて出来たなと思いました。
- ・毎回「益子の土」をテーマに違う作品を生みたいと思います。
- ・とても良い経験をさせて頂きました。今後の勉強になりました。
- ・益子と言えば陶芸をイメージする。これをもっと「陶芸」を強調しては如何でしょう。地方創生では、強みを生かして。
- ・告知、来場者への入場前のアナウンス（禁止事項等）の内容について。作品は鑑賞者の状態によって感じ方が左右されます。自然な形で、状態を整えるはどうしたらよいか？という点を、作品の性質を考慮し、もっとつめる必要があったと反省しています。
- ・自身の仕事も後回しにして良く係ったと思いますが、新しい風景が見えたり、参加して良かったと思っています。次回も是非開催して欲しいです。
- ・反省点は、作品自身にあり、次作品につなげていきたい。
- ・自分が関わっているという事の広報、周知。太平座での上映環境の改善
- ・自身の企画の準備からワークショップの実施、そして展示まで一連の活動を通じて、ボランティアでサポートいただいたスタッフの方々、地元の小中学生や保護者の方々と一定の交流を持つことが出来、今回の滞在を通して、自分なりに益子町の風景の魅力を知ることが出来ました。この手応えを是非次回へと繋げたいと考えております。
- ・多くに関わりすぎて、ゆとりがなかった。
- ・益子在住ではないために、会議や設営など、欠席せざるを得ないときがあり、ご迷惑をおかけしてしまった。当事者という意識を高めて、次回は今回よりも積極的に関わっていきたい。
- ・規模が大きすぎて收拾がつかなかったと思う。もっとコンパクトにできないか。
- ・いつどこで何をやっているのか、もっとわかりやすくした方がいいと思います。
- ・個人の仕事も忙しく中途半端に自分たちの展示にしか関われず残念でした。もっといろいろ動けるように率先して参加できればよかったと思う。
- ・力が100%ではなかった。次回はもっと「力」を出し切りたい。
- ・くたびれた。
- ・反省点は、自己のスケジュール管理。抱負は、いち作り手としてここがレベルをあげることによって祭の質の向上、宣伝などにつながると思うので、日々、頑張ろうと思う。
- ・一町民としてボランティア協力したい。
- ・最後の仕上げの段階でいろいろありましたが、自分のプロジェクトを仕上げるのに精一杯で他の展示へのお手伝いやア

ドバイスができなかったこと。

- ・益子の風土の良さを定着させるためには、発見すること、伝えること、歩くこと。

《職員》

- ・役場職員への動員のかげ方が第1回目から大きな変化があった。事務局は限られた人数で多数の企画を進めなければならず、会期直前に職員へ依頼があり手が回らなくなっていたように見受けられた。関わる側としても、事務局へ事細かに確認しながら進めるのではなく、チーム内の裁量で進めていった方がスムーズな進行が出来たように感じた。他課の職員は自身の業務外に行くため負担にはなるが、多数の企画を運営すること、参加する職員の経験にもなることを考えると早期から職員として企画へ参加し、住民とともに活動すべきと感じた。
- ・もっと勉強してのぞむべきでした。地域の方々の参加はよかったと思います。
- ・もう少し関わりを持ちたかった。
- ・あまりお手伝いできなかったもので、次回はもっと関わりたい。
- ・関わるのであれば、動き出しを早めたい
- ・会期前、会期中含め土祭に参加する範囲が限られてしまったことが個人的には残念であった。もっと手伝えること、動けることが見えていても手伝えない、横の連携がとれず心苦しかった。会期前は風土風景を読み解く集いをはじめ、会期中は作家さんやボランティアの方含め交流を持つことができ、また良いものを作り上げていこうと気持ちを持ち寄り、考え、行動につなげていく過程を共有することができ非常に刺激的で有意義な（限られた）時間でした。事務局の皆さんをはじめ、大変お世話になりました！
- ・もう少したくさんプロジェクトに関わりたかったが、本業が多忙だったので、できなかったのが残念でした。
- ・受付をしていると、多くの質問を受けるので、間違いなく回答できるよう、土祭の把握をもっとすべきだった。
- ・町民参加の拡充
- ・参加したくない。他の方に迷惑をかけないでほしい。
- ・自分自身の職務が滞っても協力してきたつもりです。なかなか連携がうまくいかなかったことが残念です。次回は、自分自身も楽しめるような余裕を持ちたいです。
- ・日常業務との兼ね合いで十分に関われたとは言えないが、やれることはやったつもりです。次回、もし関わるとしたら企画の段階から参加できたらと思います。
- ・準備に積極的に参加できず申し訳ありませんでした。次回は何かできることで準備の段階から関りたいと思います。
- ・もっと早めに準備、打ち合わせをするようにします。
- ・自分の担当している所だけで手一杯になってしまい、もっと手伝えたらと思いました。

Q11 土祭で改善すべきこと、あったらよい企画やサービス、運営体制のことなどご自由にお書きください。

《民間スタッフや関係者》

①運営体制・事務局人員について

- ・Q3でも書きましたが、事務局の人数を増やして、ゆとりのある体制にしたほうが良いと思います。今回は新たな試みが始まり、企画もあちこちで生まれて、規模的にも内容的にも、少人数でこなすには限界があったのではないのでしょうか。不眠不休で動いてくださった皆さんには、頭が下がります。色々とお世話になりました。本当にお疲れ様でした！！今後とも、どうぞよろしく願いいたします。
- ・スタッフの人数が少ないと感じる場面があり、その分もっと良くできただろ所が中途半端になってしまったのでは。
- ・運営体制がどのように形づくられているのか理解できませんでした。また、スタッフの皆さんの熱意に依存しすぎているように思います。考えすぎでしょうか。

②運営体制と事務局人員、複合的感想

- ・地域の自主企画が全町にあると良いと思う。運営体制は、今回は（も？）夜中遅くまでとても大変そうでした。体制の確率と明瞭化が必要だと思う。細かいところまでチェックできる体制と余裕をもった運営ができないと長く続かないかな？と思ってしまう。企画自体はいいと思うから。事務局の皆さん、お疲れさまでした。
最後に、夕焼けバーのお店の方は、前回よりいくらか明るくなりよかったと思うが、やっぱり全体が暗すぎると思う。料理は目で楽しみ、鼻で楽しみ、食べて楽しむものだから、景観うんぬんもあるかもしれないが、全体暗すぎです。
- ・事務局のみなさま、本当にお疲れさまでした。少人数体制だったので苦労されたこと、辛かったことなど今後につなげられる課題を一番わかっているのが事務局のみなさまではないかと思います。大きくみての企画やサービスはすぐに思いつかないのですが、運営体制についていえば、余裕をもった体制を作れるのが理想ですよね。少人数体制での限界はあると思います。あとプログラムについての情報発信のタイミングがもう少し早くできたほうがいいかもしれません。今回情報共有の難しさもあったのではないのでしょうか。事務局にではなく町の職員が土祭について町民から質問されることも多いのではと思います。そのときどう答えられたか。「事務局から何も情報が出て来ないからわからない」ではもったいない。町民が、町外の人から質問されたとき、「まだ何もわからない」ではもったいない。もし町民どうし、職員どうしで「事務局（町）は何も教ええくれない」と思っていたとしたら、それが一番もったいないような気がします。例えば「今後も日常的に続けていくこと」が生まれるのであれば、そうしたことが次回の土祭を伝えやすくするひとつの要素になるかもしれません。「3年に一度、新月から満月まで」という祭は日常業務とは異なるものだと思いますが、うまく次回に向けて動いていけるしくみ、体制が取れるといいのではないのでしょうか、期待している人、楽しみにしている人がたくさんいると思います。私自身、次回の土祭も楽しみにしています。
- ・今回より役場の他課の協力体制が減少し地域リーダーが加入した形となりました。しかし数はあってもなかなか動くに至らなかった気がします。引き継ぎの意味でも他課の協力はもっと必要だったと思います。実際、事務局だけでは手が不足してしまっていました。とても定説だった外部への告知が遅くなっており見送る形となる場合もありました。広報担当は事務局とは別に必要だったと思います。自分としても、自分が関係しているものしか把握できておらず、日時などが重なってしまったり、他のイベントを知るのが遅くPRにかける時間がもてなかった。直前でスケジュール一覧を

作ったものの一部でしかまわらず聞かれても即答することができませんでしたPRで言えば、道路の看板や旗、新聞やテレビなどのメディアなど、もっともっと前からPRして盛り上がりアピールしてもよいのでは。オリンピックなどの巨大時計などで「あと何日」みたいなものやマスコットみたいなものがあったら。

- ・(風土・風景を読み解く) 評価できること：益子の風景を通して風土を読み解くという廣瀬先生の試みは、これまでにない故郷へのつながりを見出せるのではないかと感じました。短い文章の中で、しかも耳慣れた言葉が使われ、親近感のもてる分析が光りました。的確な表現は説得力がありました。考えてほしいこと：地質時代から人の営みが出現するまでは、気の遠くあるような道程がありましたが「風景を通して風土の成り立ちを読む」にはその時間があまりにも長すぎるように感じました。私たちの周囲の風景ができてあがるのも、私たちの今の営みができてあがるのも100年200年、あるいはそれ以上の長い時間がかかっているのはあたりまえのことです。しかし歴史の中では大きな節目があります。縄文の時代は10000年以上ありましたし、律令時代、武士の時代、安定した江戸時代、そして明治維新と大きなうねりの中で歴史を重ねました。益子という地域は其中で、どの時代にどんな変化をしてきたのでしょうか。風土の成り立ちに決定的なことはいつ、どこで、どんな風に起こったのでしょうか。2014土祭読本では風土から受け継ぎ伝えるものとして取り上げられた祭などがありましたが、今にこだわるあまり、長い積み重ねが欠落している感がありました。今回もその辺の掘り下げが不足、抜け落ちていたように思えます。(企画運営のしくみや体制など) 評価できること：関わった多くの人たちがニュートラルな感情で諸行事に取り組まれたのは、代え難い新鮮さを感じましたし、「土祭の本来の意味」も見えました。また接触した製作者や参加者が熱心に打ち込み、有形無形のものを作り出すのをまじかで見、力を感じました。考えてほしいこと：時間的な余裕のあったプランニングの段階で、周囲を見回して協力者を集める努力をすべきでした。これまで町の計画や行事などを進める中で様々な関わり方をしてきた多くの方たちは、継続的にしかも献身的に地域貢献をしてきました。そしてその多くの皆さんがこの行事に関係してきました。主体的に参加すると単なる参加者として臨むのでは大きな違いがあります。継続的にまちづくりにかかわってきた人たちの下には、地域の多くの人たちの支えがあります。これを無視して狭い地域での展開では極めて不自然なものになります。また、日常のことではなく、単発の、余韻の残らない「こなす」行事になってしまう危惧が残ります。土祭は期間限定ですが、地域の協力者の皆さんは土祭の前も後も、ずっと続けて活動されています。ああ終わったと、いつものボランティアや地域の活動にもどって、日常をすごしています。

③具体的な提案や今後の方向性についてなど

- ・町民が主体となって行い、先人達の築いてきたものを守り、引き継いでいこうとする姿勢の感じられる「土祭」はとても良い企画だと思い、今回参加させていただきました。これはただ自分が不勉強なだけかもしれませんが、土祭に参加していた自分でも、土祭のコンセプトを理解することが難しかったです。各家庭に配布された冊子を読んでもなお、霧がかかったままといいますか・・・可能であれば、私のような者にもわかるような、明確なコンセプトを明示してほしいと思いました。
- ・お客さまをお迎えするイベントなのか町民のためのお祭りなのかがはっきりしないと運営がバラバラになってしまうのでは？土祭広場をメイン会場、本部スタート地点と位置付けて集約すれば運営ももっとスムーズにいったのではないかと思います。
- ・イベントとしての土祭に興味はありませんが、その考え方は大切だと思います。日常で土祭のコンセプトを生かせる環境を整えて行って欲しい。

- ・共有できるテーマや意義をしっかりと設けないと何をやってるかわからない。参加者しか内容を理解できないのでは？
- ・ひとつひとつの企画は面白いが、分散しているので、集客も難しく全体に盛り上がりが今ひとつの印象がある。何かシンボリックな大きなイベントがあったらいいのでは？ 町内の人間お関わりももう少し広がっていくといい。深く関わる人と全く関わらない人と二分されている。時間をかけてつなげていくことが必要。
- ・町内の歴史的なことを取り上げての良いのでは？
- ・風景遠足を増やしてほしい。
- ・良い企画がたくさんあったにもかかわらず、情報が把握できずに参加できず残念でした。よりわかりやすい迅速な情報提供の方法を考えて欲しいと思います。
- ・どこでなんのイベントが行われているのか、道のところどころに地図をおいておくといいかも。サイクリングしながら周囲を回れたり、自然を利用しアート作品などがあると面白そうです。せっかく長い期間行うのであれば周辺の陶芸作家さんとも大きなオブジェを作成したり（お忙しいと思いますが）すると来人も楽しいと思います。益子全体で楽しめる！みたい。企画、参加するほうは面白いと思いますが、見る側からしたら、もう少し中身がこいものにしていかないともったいないです。本当によい体験をさせていただきました！！どうもありがとうございました。泥団子制作スタッフ（五月女さん小平さん）本当にお世話になりました！ どうもありがとうございました。
- ・町職員さんや実行委員各氏は不休の日々でお疲れさまでした。今回、WS お手伝いした日に手当金をいただきましたが（町外者のみ？）要らない気がします。
- ・今回でいえば、バスの中にもガイドする人がいるとよかったと思う。担当なさったみなさん、本当にお疲れさまでした。新しい地域発見があったことと思います。
- ・お客様に、小さな子連れの若い家族が多かったと思います。次世代に繋ぐためにも子供のスペースを増やせると助かるのでは。手仕事村の子供スペース、よかったです。
- ・やっぱり半月って長すぎるのでは？準備から期間中、関係する方々が疲弊する姿に、祭としての疑問を感じてしまった。
- ・サービス～散策しながら回って見学、参加することが多数なので、中には老夫婦や年配の方も見受けられ、「ベンチが少ない！休む所があるといいね！」などと声を聞き、改善していただければと思います。
- ・地元の業者を大事にした方がいいかと思います。
- ・土祭期間中、誰の家でも簡単に組みあがるなにかってというのが町内中心部の人の目につくところ以外でもあっても楽しかなくとも思いました。玄関先に何かかけてみるとか。何か意味をもったものだと面白い。・段取り良く。
- ・運営のことはよくわからないのですが、地域のお祭りにするのであれば、地域の方がやりたいように進めるのが一番かなと思いました。
- ・会場範囲が広すぎた！ スタンプラリーのNo方法がわからない。西・東とエリアを分けては？
- ・私はブログでお世話になったのでブログのこと。事務局の方は、準備で記事を書くのが難しくなります。どうしても紹介に偏りができます。まんべんなくどのイベントにもスポットがあてられるようにイベントごとの広報がいてもいいかなと思いました。広報を少人数で連携してすべて紹介できたらベストですね。今回の土祭は展示される地区が広がり、とても良かったのですが、塙、大沢、田野などにもなにかあったら、そこに住んでいる人たちも喜んだらうなと。作家さんで事前に制作費が出た人と出ない人の差はなんだろうかと疑問に思うこともありました。
- ・（地域プロジェクト）今までなかなかまとまりのなかった空気の中でのプロジェクトは正直大変でした。しかし今回の

プロジェクトにより「地域の価値」を見直す結果となりました。里山の保護については「里山清掃&トレッキング」、文化財の価値については「観光ボランティアガイド」、歴史の復活については「お神輿と夏祭りの復活」、伝統文化の伝達については「太々神楽ワークショップ」。今回で終わらず来年も続くプロジェクトとなりました。

- ・いろいろな方からも聞こえてきた声の中にシャトルバスの事がありました。今回のルートの順だと、腸内での下車が多く、西明寺や大羽地域まで乗ってくる方が少なかった。逆に、大羽や西明寺などからの順で回るか1人スタッフが乗車しガイドを行うなどするともっと良かった気がします。
- ・人が作るものなので、人に（誰にでも）わかりやすいこと、誰もが参加したいと思えること、そして一つになれること、これが理想だと思います。
- ・期間中の宿。街中に宿泊できる「ハコ」が一時的にでもできると良いですね。「民泊」が良いかな！大地の芸術祭の民族博物館プロジェクトが参考になると思います。

《作家や登壇者》

①運営体制・事務局人員について

- ・土祭事務局の人数を増やす。スポンサーをつけて予算を増やす。
- ・開催中、事務局担当に何度か質問で電話した時に、パンク状態だと感じました。ほかの方々の声も聞きました。この規模のイベントに見合う体制を整えるべきだと思います。

②運営体制と事務局人員、複合的感想

- ・今までいろんな場所で作品展示やワークショップをさせて頂いてますが、益子町のような役場の方々の仕事っぷりや町内の人々の仕事っぷりは、他に見た事がないです。凄い能力の人達が集まっている場所だと常々思っています。凄い人達の集まりなんですけど、土祭自体が年々開催地域が広がっていることもあり、運営体制の人数を増やす必要があるように思います。運営側の方々の負担が少しでも減ってほしいと思います。 今後も事故や怪我もなく、より豊かな土祭が続きますように。参加させてもらっている私が甘えてばかりで申し訳ないのですが。今回も参加させていただきありがとうございました。みなさんのご協力なくしては実行できませんでした。本当にありがとうございました。徐々に寒くなってきてますので、みなさまお体には気をつけて。お忙しいかと思いますがお体ご自愛くださいませ。またどこかでお会いできることを楽しみにしております。素敵な機会をありがとうございました。
- ・展示する上で、作家自身が準備しなければいけないことがどこまでなのかを、整理して書き出して早めに伝えておくことが大切だと感じました。早めに知っていれば、良い展示になるように積極的に自分で関わっていくやりがいも感じられ、事務局や役場の方達ともスムーズに共に祭を作っていくことが出来るのではと思いました。祭の規模に対して事務局の方の人数がとてもし少なすぎると思います。土祭に専念できる方を一年～半年前からだけでも増やすことでいろいろなことにゆとりが出来てよりたくさんの方がたのしめる祭になるのではと思いました。
- ・運営スタッフの数と、祭りの規模のバランスの見直しが必要だと思う。事務局や地域のリーダー、スタッフに掛かる負荷が大きすぎたのではないかな。その負荷に対する町側からのリターンのバランスは取れていたのでしょうか？

今回はもっと規模を小さくしてもいいように思います。この先も作品展示など継続する場合、美術イベント運営の経験者をスタッフに迎える必要性を強く感じました。プロジェクトを実行する上で事務局と、作家を纏める人間との間に摩擦やすれ違いが生じていたのは、見えているものや、生きてきた背景、価値観の違いにより、物事の進め方に大きな違

いが現れたからだと思えます。それはどちらが正しいとも言いがたく、同時にその違いは短期間では埋めがたい。ただ、お互いより良くしようと思う気持ちは変わらないので、その間に立って、双方の言葉を理解し、翻訳しながら話を進めていく存在が必要なのだと思います。それは上に立つような特別な存在はなく、一スタッフとして経験のある人間がいてくれるだけで解決する部分は出てくると思います。（書いていて、雨海さんの顔が何度も浮かびました。）

最後に、事務局の方々が打ち上げで前に出てこられて、これだけの人数で運営してきたんだ。すごい！！と、頭が下がる思いでした。私、個人にとってはとても素晴らしい祭りでした。祭りを終えた後、感謝の気持ちでいっぱいでした。晴れ晴れとした気持ちで終わることが出来たのは、皆さんのおかげだと感謝しております。

今回はより良くなるよう、感じたことを率直に書きました。まだまだ話すべきことはあると思います。またそのような場を持てるといいですね。本当にお世話になりました！ありがとうございます。

- ・ガイドブックとパスポートを切り離して売ったことは良かったか？問題があったか？ 企画の多様な展開に対応する運営人材不足。「祭りは神事」とする括り方と現実との乖離を強く感じる。土祭りの表現全般にしてもミチカケにしても、地域の良さや優れている部分の紹介が多く、課題や問題点を暗示する深さみたいなものが感じられない、田舎暮らしを長年試みて難しいこともたくさんあるんだけど。

③具体的な提案や今後の方向性についてなど

- ・企画は素晴らしいが、遠くからの来訪者には全部に参加出来ないし、その点、企画内容を、地元向けと、遠方からの来訪者向けに分けて、はどうでしょう。
- ・体験型のアートがもっとあってもいいと思った。楽しんでもらうという意味でも、「地域」のアートとしても。
- ・地図がわかりにくいという意見を多く聞きました。夕焼けバーのテーブルと椅子が増えるといいですね。
- ・とても良い経験をさせて頂きました。今後の勉強になりました。
- ・スタッフはただ居るだけでなく、おもてなしの精神で、来た方たちに益子を好きになってまた来てくれるよう積極的にかかわって行って欲しい。そのように指導するほうが良い。
- ・連絡や情報共有が良くない。特に受付をしているボランティアかたへの説明。トークイベントなどへの対応は、開催を要求しているのであれば、きちっとやってほしい。運営、作家、ボランティアというそれぞれの役割を徹底する必要があると思う。今回は、運営のキャパシティーより場所的規模、企画数などがおおすぎたのだと思う。
- ・事務局のみなさま、お世話になりました。ありがとうございました。
- ・夕焼けバーの椅子と机が少なすぎる。照明が暗すぎて食べ物が見えない。
- ・外部に向けての情報発信はしていたようだが、町内の人が理解度も少なく関心をもっていないように感じた。
- ・町全体に広域にイベント企画があるため、マップや道にある看板などもっとわかりやすくした方が良いと思います。今のままだと、本当に今開催期間なの？という印象がありました。運営のみなさま、準備の際、大雨で大変な中、本当にお疲れさまでした。無事に終了できたことはスタッフのみなさまのおかげです。本当にありがとうございました。
- ・コンテンツはそろったので、今度は告知や参加者を増やす努力、そして運営の人員を増やす努力をした方がいいと思います。無報酬や赤字で参加している作家、ボランティアの方々が多数いる中で、有給でやっている役場の人が率先して動かないというのは問題外ですし、地域おこし協力隊の増員が可能な中で、それをしないのは理解に苦しみます。
- ・誰もが参加できるように。地図をわかりやすくする。巡回バスを出す、など。
- ・内容は素晴らしいお祭りでしたが、それをもっとわかりやすく多くの人に伝える考え方や仕組みをつくること。来てい

ただいたお客様にわかりやすいマップや楽しみ方の提案が必要。伝えたり楽しみ方の窓口が作る側とは別にひとつの柱として必要な段階に来ていると思います。

- ・土祭は、規模の大きさ、話題性、集客数、経済波及効果など、従来の評価基準で判断するのではなく、長い時間軸で益子の財産となる土祭のあり方を考えて欲しい。県外に出かける機会が多く、たくさんの人と会うが、意外なほど益子や土祭は注目されています。宣伝効果やイメージアップという点では、土祭の対費用効果は相当高いと思います。来場者の満足度もたいへん高い。今後も町民と人と人との交流が深まる企画やサービスに期待します。

《職員》

①運営体制・事務局人員について、複合的感想

- ・事務局内に会期中、臨時対応等フリーで動ける人員を配置すべき。準備においても方針・企画書に対して具体を進める人員が足りない状況があった。
- ・運営の方もボランティアの方も人員不足が目立っていたような気がします。土祭を知らない方に対して、どういうものか簡潔に説明しづらい部分がありました。何よりも事務局のみなさんが頑張ってきたものがカタチになっていたと思いました。お疲れさまでした。
- ・運営陣が楽しくできるよう、配慮してほしい。休みなく、作家の難しい要望にも答えなければならず、大変そうにしか見えませんでした。
- ・少ない人数でのイベントは難しい（企画が多すぎる）。益子町のイベントすべてにおいても言えますが、イベント期間が長すぎる。
- ・職員の適正な勤務体制が望まれます。長く続けるためには、心身ともに健康であることが大切です。それが住民サービスをよりよいものにしていくのだと思います。
- ・休みを取れずに仕事をしなければいけない体制を改善すべき

②運営のオペレーション

- ・事務連絡や引き継ぎを徹底すると、より効率的かつスムーズに受付など行えると思います。例えば、展示会場の戸締りについてや受付場所の設置についてなど。
- ・宣伝効果もあったと思うし、うわべはよかったと思う点は効果があったといえるかもしれません。ただ運営する側の説明会やマニュアルはなく、当日の打ち合わせもされないに等しい状況は接客面で問題だと感じました。土祭風景遠足の参加者は駅で迷っていましたが、駅の迎えの話はしらなかったのが迅速に対応できませんでした。しかも迎えの車は迎えの車だと表示もしてなかったのが一歩間違えばお客さまを乗せずに過ぎ去っていたところでした。受付の人の配置は不備がないように！！ 相手は来ると思っているにも実際は配置されていないなど、そんなことがないようにすべきです。地元の人がたどりつけないような地図では意味がないと思うのでわかりやすい案内地図を作成すべきだと思います。また現地の道案内（やじるし）も必要だと思います。せっかく来てくれても辿り着けなかったり作品を探せないのでは意味がありませんし、来てくれた方にも失礼だと思います。準備する側ではなく逆の立場を考えて準備を進めることも必要だと思います。人が足らなくて忙しさのあまりできないということであれば、この企画自体を見直す必要があると思います。
- ・スタッフ用マニュアルをもっと充実させる。事務局に聞かないとわからないことがたくさんあった。

③具体的な提案や今後の方向性についてなど

- ・会期中の受付でパスポート500円で迷って買わない人が多数見られた。「マップだけください」と言われたが差し上げるマップがなく、またパスポートがないと入れないと伝えても「今回はいいです」と土祭の入場の仕組みを理解していない来場者が多かった。パスポートの他に土祭の企画展示内容がわかるマップは無料で配布し、それでイベント全体を理解してもらい500円の価値があると感じてもらえないとパスポートが売れないように感じた。
- ・テーマが明快であれば、PR効果をもっと大きくなると思う
- ・住民主体へ切り替えるのであれば、エリア、期間、企画数は減らした方がよい。増やす、広げるのであれば、切り替えは不可と割り切って運営すべき。
- ・土祭事務局の方は当番になってもほとんどその場にいられないのであれば、当番に入らずに別の職員を割り当てた方がよろしいのではないかと思います。
- ・お祭りの規模、会場的な意味でも会期的な意味でも、もう少し集中的にやってもいいのではないかと思います。パスポート制は廃止してもよい気がしました。
- ・作品は、もっと大きなものがあると良いと思う。事務局や個別の方などの負担が大きくみえたので、もっと軽減して平準化できる方法があれば・・・スタッフ人員数が限られているので、企画を集約したほうがよい。
- ・会場が広すぎると思うので、1日で回れる会場作りがいいと思います。英語のパンフレットがあるといいと思います
- ・直前の連絡変更などが多かったので、改善した方がよい。
- ・「段取り」をよくすべき。
- ・中止したほうがよい。
- ・事務局の方々、大変お疲れさまでした。
- ・賄いについては、あまり利用者がいないため、次回は必要ないと思います。
- ・本部の周辺にもう少しイベント的なものがあると良い。第1回目は、新町などの屋台パークに出店者がいたり、ワークショップがあつたりと、集客スポットがあつたように思う
- ・手仕事村では様々な体験ができ、満足度が高かったと思う。
- ・今回のボランティアの賄いがあまり日数が少なかったが、あの雰囲気、あの場での交流、作家さんたちのと交流が土祭のよいところの1つだったので、その機会が減ったのは残念でした。事務局のみなさま、長期間お疲れさまでした！